正しい発音ができる喜びを実感し，
日常生活の中で活用していこうとする意欲を育てるための指導と評価の一試み
―― 言語通級指導教室における「置換性構音障害」の指導を通して ――

大崎市立古川第五小学校
教諭　早　坂　　和　枝

Ⅰ　主題設定の理由

１　今日的課題から

現行の学習指導要領では，「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が求められている。児童一人一人が，自分のよさや学習することのよさを体感しながら，児童と教師，児童同士，更には児童と地域社会が豊かに関わり合いながらよりよい自分を目指していくことのできる教育が必要とされていると言えるだろう。しかし，いま，未曾有の新型コロナウイルス感染拡大によって，互いをよりよく理解するための手段のひとつである「対話」が制限されている。言語通級指導教室における構音指導もまた例外ではない。

そこで，

① 感染症対策をしっかりと行った上で，児童との「対話」を大切にし，児童が「なりたい自分」になれるような指導・支援を行う。

② 児童が正しく発音できる喜びを実感し，日常生活の中で活用していこうとする意欲を喚起する。

という，教育の根源的目標の実現が大切であると考えた。

２　本校教育目標から

本校の統括目標は「行きたくなる学校を目指して」である。「安心して学べる環境」「分かる授業」「居場所のある生活」の３つの視点から児童を支援していくことを目指すものである。

構音指導においても「正しく発音できたか」という結果だけを評価するのではなく，「どのような過程で，正しい構音の仕方を身に付けていったか」という，児童の発音が変容していく過程を評価し，それを児童と教師，学級担任，保護者と共有しながら，適切な指導・支援を行っていくことが大切であると考えた。

３　児童の実態から

構音障害，特に「置換」のある児童の多くは，子音ｋやｓがｔに置き換わったり，鼻咽腔閉鎖機能や口腔周囲筋の不調和により子音が正しく発音できない状態になってしまったりしている。サカナがタカナ，チキュウがチチュウと発音されるため，自分の言っていることが相手に理解してもらえずに聞き返されたり，笑われたりした経験をもっている。日常生活の中で繰り返されてきたこのような経験によって，話すことに抵抗を示すようになっている児童も少なくない。

過去５年間の本校の１年生 734 名の一斉言語検査の結果を見ると，平成 30 年度は歯間性構音障害が 24 %，側音化構音障害が 6.5 %，置換性構音障害が６%であったが，今年度は歯間性構音障害が 13 %，側音化構音障害が 7.8 %，置換性構音障害が 15.3 %であった。歯間性構音障害の 11 %減少に対し，置換性構音障害は 9.3 %の増加となった。この増加の要因のひとつとして考えられるのは，食生活における咀嚼の機会の減少ではないだろうか。下顎を持ち上げ口を閉じるための咀嚼筋や口角を上げるための唇周囲筋の動きが緩慢で，子音が正しく発音できていない児童が増えている。ウイルス感染予防対策としてマスクをしていることで，唇周囲筋をよく動かして会話することや唇を閉じることへの意識が更に薄れてきていることも子音が抜けてしまう要因になっていると考えられる。食生活の改善については，家庭環境や家庭生活にかかわるところが大きいが，咀嚼筋や唇周囲筋に意識を向けさせ，よく動かして相手に伝わりやすい話し方ができるようにする指導は，学校教育が担うべき指導のひとつであると考える。

そこで，１時間ごとの指導のめあてを明確にし，そのめあてについてについてどうだったか，前時と比較してどのように変容したかを児童と教師，学級担任，家庭とが共有することで，学ぶ意欲をもち続けながら構音学習に取り組ませることができるのではないかと考えた。

以上のような理由から本主題を設定し，児童がことばの教室で学んだことの広がりを日常生活に求めていくことができるような構音指導を目指して，実践研究を行うこととした。

Ⅱ　研究目標

正しく発音できるようになっていく喜びを味わわせながら，身に付けた正しい発音の日常化に向けて意欲的に取り組む児童を育てるための指導と評価の在り方を置換性構音障害の指導を通して明らかにする。

Ⅲ　研究仮説

置換性構音障害の改善に向けて，次のような手立てを講ずれば，児童ができるようになっていく喜びを実感しながら，意欲的に構音学習に取り組み，その成果を日常生活に生かしていくことができるだろう。

①　新型コロナウイルス感染症予防対策下における非接触を基本とした学習過程と評価の工夫　【手立て１】

②　感染症予防のための学習環境整備の工夫　【手立て２】

Ⅳ　研究計画

１　対象　現在３年生児童

２　期間　令和３年４月 26 日～令和４年７月 19 日

Ⅴ　研究の概要

１　対象児童の実態

障害名：置換性構音障害	
諸検査：言語検査・運動機能検査	検査者：言語通級指導教室担当　早坂　和枝
①　言語検査の結果（令和２年６月２９日実施） ・　カ・ガ，サ・ザ行音がタ・ダ行音に置き換わる（子音の入れ換わり）。 ・　キャ・ギャ行音がチャ，ヂャ行音に置き換わる（チ音化）。 ・　ケ・ゲがチェ・ヂェに置き換わる（チ音化）。 ・　ラ行音を発音する時に舌先のそり上げが緩慢なため，特にリがディに置き換わる（接歯性）。 ・　音の聞き分けがあいまいで，単語・短文の反唱で音の置き換わりに気付かない。 ②　運動機能検査　（令和２年４月２６日実施） ・　唇の突き出しや頬の交互膨らまし，両頬同時の膨らましはスムーズにできる。 ・　舌を左右に動かすことはスムーズにできるが，舌小帯が短縮気味なので，上下・前後に動かすことは緩慢である。 ・　舌を丸めて，ローリングさせることはできない。 ・　口角を上げて，それを保つことが苦手である。	
実態や保護者の話から考えられること	
①　生育過程で舌小帯が短縮傾向にあったことが，咀嚼の力加減や舌の動きの緩慢さに影響を与えてきたと考えられる。 ②　健康診断では鼻咽腔閉鎖機能不全や口腔周囲筋の不調和等の指摘はなかった。器質的にも機能的にも問題がないことから，幼児期のことばを習得していく過程で，誤った舌使いや息の出し方で覚えてしまった構音の状態が習慣化してしまったと考えられる。	

２　指導の方針

（１）母音を正しく仕上げる。

（２）聞き分けなどの耳の訓練を行う。

（３）障害音を次の順に指導する。

母音→平舌イ→カ行音→サ行音→タ行音→ラ行音→濁音・拗音・拗長音

（４）構音できるようになった音を段階を追って「音節」「単語」「短文」「文章」「会話」の中で活用していくことができるようにする。

（5）自分の発音を聞き取って，発音の誤りに気付いたら，自分で舌位や息の出し方を修正することができるように，自己評価能力を育成する。

3　指導の実際

（1）個別の指導・支援計画と指導経過

1　障害の状態　置換性構音障害（子音ｋ，ｓ→子音ｔ，子音ｒ→ｄ）

2　指導目標
① 正しい母音の口形と発声を身に付けさせる。
② 正しいカ・サ・タ・ラ行音の構音の仕方を身に付けさせる。
③ 文章の音読や早口ことばでの練習を通して，日常会話でも正しく発音できるようにし，より豊かな言語生活を送ることができるようにする。

3　指導方針
① 母音やカ・サ・タ・ラ行音の正しい口形や舌の使い方，構音点を身に付けさせる。
② 日本語音韻の標準音を発音できるようにする。
③ 課題を正しく理解させ，指導と評価の一体化を目指しながら，構音の改善に向けて楽しく意欲的に学習に取り組むことができるようにする。

4　指導内容と方法
① 機能訓練（うがい，ポッキーなめやウエハース取り等）
② 正しい構音の基礎練習（発声習，母音の構音，音の弁別）
③ 正しい構音の基本練習（ウエハース立て，ウエハース載せ，子音の息の出し方と舌使い等）
④ 正しい構音の習熟練習（無意味音節，単語）
⑤ 応用練習（短文，文章，教科書の音読，会話，早口ことば）

5　長期目標
① カ・サ・タ・ラ行音を正しく聞き取ることができる。
② 平舌イを保って，カ・サ・タ・ラ行音を正しく発音することができる。
③ 会話の中で正しく発音し，自分の考えや思いを正しく伝えることができる。

6　指導経過
【令和３年４月から７月　指導回数 14 回】
- うがい，唇と舌の筋力トレーニング，ポッキーやたまごボーロ，ラムネ等を使った唇と舌の運動を継続。
- 平舌イの舌位を保つ指導からイ・シ・キ・ケの指導を行った。指導３回目で平舌イからシの発音（人差し指にろうそくの火を吹き消すように息をまっすぐに当てる感覚で）合格。単語の反唱練習に進んだ。意欲的な学習態度で，根気強く繰り返し練習に取り組んでいる。
- ６月 21 日　指導７回目から短文３回唱えの練習を開始。家庭でもよく練習してきている。自分の口形や舌位を鏡で確認し，音の歪みを聞き取って自分で修正することができるようになった。鼻濁音も正しく発音できるようになった。

【令和３年８月から３月　指導回数 16 回】
- うがい，唇と舌の筋力トレーニング，ポッキーやたまごボーロ，ラムネ等を使った唇と舌の運動を継続。うがいの記録がぐんぐん伸びた。
- パタカ（ブローイング）＋カ・サ・タ行音で，息を強く前に出す練習と子音をこするような感

覚で出す練習を継続。11 月 1 日「かずえ先生こんにちは」のズの音が正しく発音できた。キ・ケ・シ・ス・チの単語の反唱練習を開始した。

- 次々に新しい早口ことばに挑戦している。11 月８日「きっと　キットカット　かってきて」の早口ことば合格。音読にも自信をもって取り組み，物語文「お手紙」の役割音読では，会話文の表現を工夫して音読することができた。会話の中でも置換はほとんど無くなった。
- ２月の学習参観とその後の懇談会で，学習の成果を確認し「指導終了」を打診した。保護者からは，「日常生活においてしっかりと発音の改善が認められますが，本人自身がもっとちゃんと発音できるようになりたいと希望しています」というコメントをいただき，令和４年度も継続通級とした。

【令和４年４月から７月　指導回数６回】

- 唇周囲筋や表情筋の動きを高めるため，唇と舌の筋力トレーニングをメトロノームのリズムを速めて継続した。マスクの下でも口をよく動かすことで，発音が明るくなることをタブレットで録画・再生して確認させながら指導した。
- 濁音や拗音，拗長音の発音練習を単語や短文の反唱で行った。
- 会話の様子をタブレットで録画・再生して，自分がどんな表情で，どのような話し方をしているのかを確認させながら，自信をもって話ができるように指導した。
- 「指導終了の伺い書」には保護者から次のようなコメントが寄せられた。

正確かつ的確なご指導のおかげで，しっかりと発音が改善されたと思います。１年と少しの期間でしたが，本人にとっても私たちにとっても見える（聞こえる？）かたちで成長が感じられ，ことばの教室を通してとてもいい時間を過ごさせていただきました。ご指導ありがとうございました。

（２）学習過程と評価の工夫（令和３年度４月から令和４年度７月）　　【手立て１】

学習への意欲と見通しをもつ段階　　めあての確認と基本の運動を行う段階

○　前時の自己評価（レーダーチャート）を振り返り，本時の学習内容と自分のめあて（なりたい自分）を確認する。

- 自己評価が低かった観点だけに目を向けさせるのではなく，レーダーチャートの五角形の大きさに着目させて変容を実感させ，意欲を喚起する。

○　手洗い・うがいをする。

- 衛生面の確保と構音器官の準備運動の二つの効果を念頭に，教師と児童が一緒に行う。

○　唇と舌の運動を行う。

- メトロノームのリズムに合わせて，舌を上下・左右・前後に動かす運動，頬を交互に膨らませたり，顔面の筋肉を緊張させたり弛緩させたりして，表情筋や唇周囲筋を鍛える運動を行う。
- 飛沫防止のための簡易フェイスシールド（ラミネートフィルムで作成）を自分で持って顔の前に立てて行う。

基本の舌使いと口形を定着させる段階

平舌イを定着させ，
キ・ケ・シ・リの発音に応用する段階

○　構音の基本となる平舌を保つ練習を行う。**〈平舌イの評価〉**

・　正中線（舌の中央にある線）が見えるような，薄く平らな舌を保つために，ラムネやウエハース，マーブルチョコレート等を自分で舌の上に載せさせるようにして意識化を図る。

コロナウイルス感染拡大以前は，教師が舌の上に載せてやっていたが，感染症予防対策としてパーティションを挟んで指導を始めてからは，児童自らが載せるように指導している。家庭でも自分で載せることができるようになっていることから，日常化への手応えを感じる。

○　キ・ケ・シ・チ・リを中心とした構音の確認を行う。

・　平舌イから，子音ｋと母音ｉの連結（渉り）を次第に速くしてキの音を導く基本の構音を確認する。その際，子音ｋを人差し指に息を強くぶつけるような感覚で出させるようにする。「息をぶつける」やのど元に手を当てさせ「のどの奥から息を出すとここが動くよ」というように具体的な指導語を使うようにする。

・　キと同様に子音ｋと母音ｅを連結させ，渉りを速くしながらケの音を導く構音を確認する。

・　平舌イから正中線を真っすぐに通ってくる息＝子音∫を上前歯裏にぶつけるようなイメージで出させ，母音ｉと連結させる。人差し指を口の前に立て，息を吹きかける感覚をつかませ，次第に指を遠ざけさせながら，強く長い息を出させ，シの音を確認する。

・　平舌イから，子音ｔｓと母音ｉを連結させ，渡りを速くしながらチの音を導く構音を確認する。上前歯茎に舌先を押し当て人差し指に息を強くぶつけるような感覚で子音ｔｓを出させ，母音ｉと連結させる。舌先を上前歯裏茎に押しつける力と舌先が離れて出てくる息の強さを意識させるために，タブレットで発音の様子を録画・再生して確認させることが有効である。

・　平舌イから上前歯の後ろに舌をそり上げて子音ｒを出させ，舌をパタンと弾くように下ろしながら母音ｉと連結させる練習後，手の動きと舌の動きを連動させて舌をそり上げるタイミングをつかませる。リズミカルな舌の上下運動を身に付けさせ，リの構音を確認する。

○　タブレットを使って構音の様子を録画・再生し，平舌イ・唇の動き・口角アップ・キ・ケ・シを確認する。

・　自分の発音を目と耳で確認し，構音の仕方の基本に立ち返られることで日常生活の中でも，「聞き取って修正する」ことを目指す。

音の歪みに気付いたら，平舌イに立ち返ることを確認し，正しい構音の仕方に修正する方法を繰り返し実践させることで，教室で学んだことを日常生活に広げることができるようになることを目指す。

身に付けた正しい構音を
音読や会話へ応用する段階

キ・ケ・シ・チ・リを中心としたカ・サ・タ・ラ行音 の舌使いに気を付けて音読や会話を行う段階

○　カ・サ・タ・ラ行音の正しい構音の仕方を音読や会話で活用する。

〈平舌イ・唇の動き・口角アップ・練習音の評価〉

- 単音での発音練習から音節→単語・無意味語（例：しかく→かくし→くしか等）の反唱→自力で音読する練習へと段階的に指導する。特に，無意味語の反唱では，普段聞き慣れない音の組合せによる練習なので，聞き取る力と反唱する力，更には瞬間的に自分の舌使いを調整したり，修正したりする力を育てることに有効である。
- 教師が範読のテンポを速めると，発音に置換が出てしまうことがある。自分の発音を自分の耳で聞き取って，置換の修正ができた時は，「修正ができた」と言う事実を褒め，学習意欲を喚起する。間違った単語を何度も言い直させるのではなく，上手に発音できるようになった単語や短文を「もう１回聞かせて」と声掛けして発音させることも意欲の喚起につながっている。
- 保護者への連絡の際にも，日常生活に生きて働く力としての「聞き取る力」「修正する力」が育ってきたことを伝え，家庭でも話題にしてもらうようにする。

○　特に終了の時期が近付いた本児には，反唱や音読，会話の際に，舌使いの誤りや発音の置換に自分で気付いた時にどうすれば修正することができるのかを考えさせ，これまで学んできた方法から自分で選択させる。

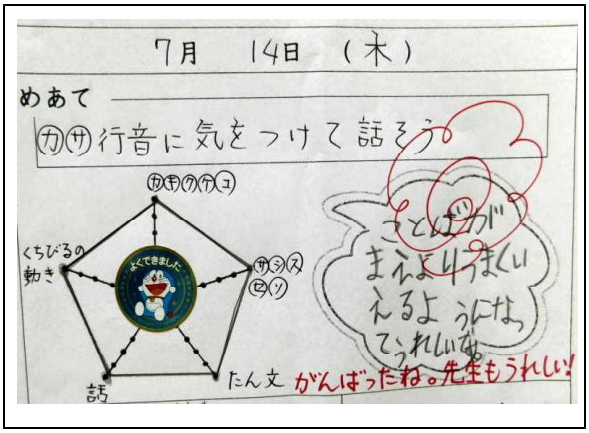
- 「基本の舌使いと口形を定着させる段階」で行った方法を想起させ，ラムネやウエハース，マーブルチョコレート等を舌の上に載せて意識するようにする，平舌イ得意な音と連結させる，人差し指に息を強く吹き掛ける等，これまで取り組んできた方法のどれが自分にとってよいか，今の場面で活用できるよりよい方法は何かを考えさせ，日常生活に生かすことができるようにする。

学習の振り返りと評価の共有の段階

本時の学習内容の確認と自己評価の段階

○　タブレットで発音の様子を録画・再生して発音の様子を確認し，自己評価させる。

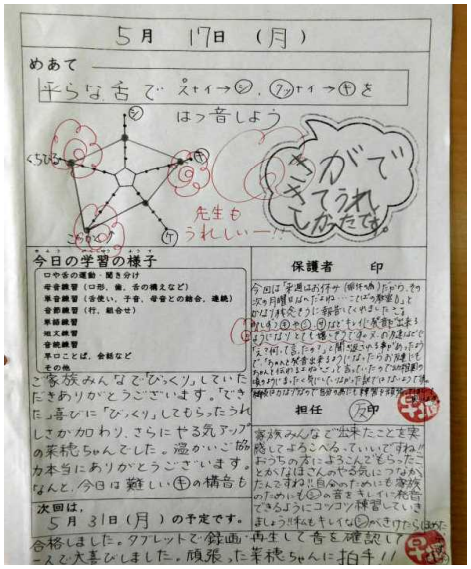
- レーダーチャートの５観点（平舌イ・唇の動き・単音の舌位と音・単語や短文・音読）について自己評価させる。自分の学びを数値だけではなく，五角形の大きさから量として捉えさせることで，「できたか，できなかったか」という結果だけの評価にならないように努める。この自己評価活動の継続を通して，「学級や家でもやってみよう」という，「学んだことの広がりを日常生活に求めていくような意欲」を喚起することを目指す。



- 「今日の学習のめあて」についての自分の今日の学びの様子を自己評価させる。更に児童と教師がレーダーチャートでの振り返りを一緒に確認することで，児童の本時の学びのよさを認めたり，発音の変容を伝える場になっている。これは，宮城県教育委員会の「**学力向上に向けた５つの提言**」の**提言２**と**提言３**にかかわる大切な段階である。

（３）過程の評価と共有化　【手立て１】

○　連絡ファイルや学級便りを通して，保護者・学級担任と構音の変容の過程を共有する。

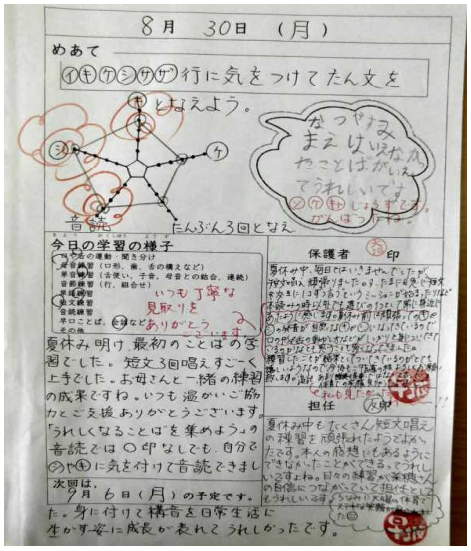


【令和３年５月１７日】

【担当から】ご家族みんなで「びっくり」していただき，ありがとうございます。「できた」喜びに「びっくり」してもらったうれしさが加わり，さらににやる気アップでした。温かいご協力本当にありがとうございます。なんと今日は，難しいキの構音も合格しました。タブレットで録画・再生して確認し，二人で大喜びしました。

【保護者から】今回は，「来週はお休み（振休の為）その次の月曜日なんだよね，ことばの教室」とかなり残念そうに報告してくれました。少しずつキやシやサなどもきれいに発音ができるようになりとてもうれしそうです。お友達などに「えっ，なんて言ったの？」と聞き返されることがあったようで，「ちゃんと発音できるようになったら，お友達にもちゃんと伝わるよね」と言っていたので，幼稚園の頃のように全く気にしていなかったわけではないようです。継続は力なり，自分のためにも練習を頑張ってもらいたいです。

【学級担任から】家族みんなでできたことを実感して喜べるっていいですね！お家の方に喜んでもらったことがやる気につながったんですね。自分のためにも家族のためにもシの音をきれいに練習できるようにコツコツ練習していきましょう。私もきれいなシが聞けたら褒めたいです。

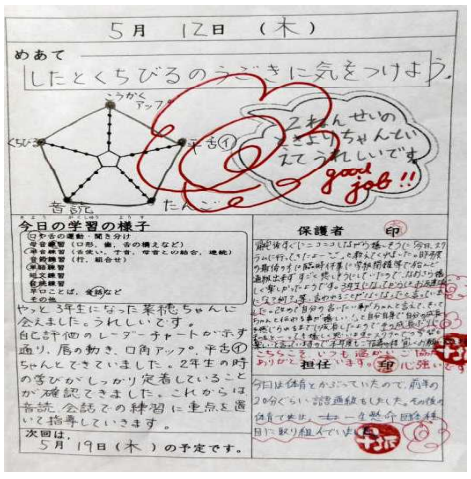


【令和３年８月30日】

【担当から】夏休み明け，最初のことばの学習でした。短文３回唱えすごーく上手でした。お母さんと一緒の練習の成果ですね。いつも温かいご協力とご支援ありがとうございます。「うれしくなることばをあつめよう」の音読では，○印なしでも自分でシやキに気を付けて音読できました。身に付けた構音を日常生活に生かす姿に成長が表れていてうれしかったです。

【保護者から】夏休み中，毎日とはいきませんでしたが，短文唱え頑張りました。たまに＆急に「短文を交互にひとつずつ言う」というミッションが始まったりなど音読みの時以外でも遊びのひとつとして常に身近にあったように感じます。夏休み前は頑張ってキやシの発音が自然になってきているので，口の形や舌の動かし方などがしっかりと身に付いてきているのかなと思うことも多くなってきました。練習したことが結果としてついてきているのがとてもうれしいようなので，今後もご指導よろしくお願いいたします。

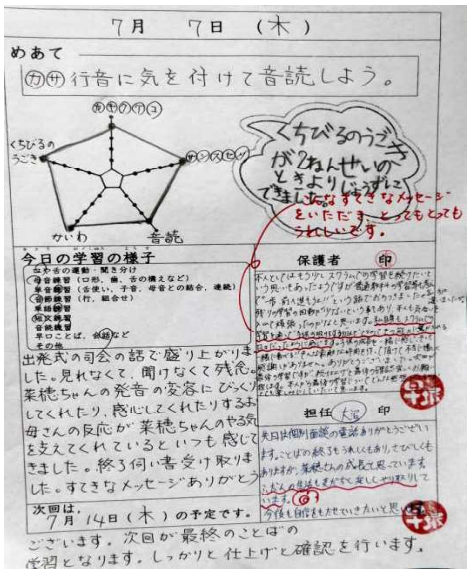
【学級担任から】たくさん短文唱えの練習頑張れてよかったです。本人の感想にもあるように，出来なかった事ができるってうれしいですよね。日々の練習が自信につながっていて，担任としてもうれしいです。



【令和４年５月12日】

【担当から】やっと３年生になった○○ちゃんに会えました。うれしいです。自己評価のレーダーチャートが示す通り，唇の動き，口角アップ，平舌イ，ちゃんとできていました。２年生の時の学びがしっかりと定着していることが確認できました。これからは，音読，会話での練習に重点を置いて指導していきます。

【保護者から】帰宅後すぐににこにこしながらうれしそうに「今日スクラム行ってきたよー！」と教えてくれました。昨年度の最後の方は，臨時休業に学級閉鎖で，ほとんど通級できずにすごく悲しそうにしていたので，なおさらうれしく楽しかったようです。３年生になってからはお友達に「えっ？何？」等言われることがなくなったと言っていました。改めて自分の言いたいことがちゃんと言えて，ちゃんと伝わることがうれしいと自分自身で自分の成長を感じられるまでに成長したようで，その成長ぶりに私もとーってもうれしく思います。本年度もよろしくお願いします。


7月　7日　（木）

めあて

㋐㋑行音に気を付けて音読しよう。

くちびるのうごき　かいわ　音読

今日の学習の様子

出発式の司会の話で盛り上がりました。見られなくて，聞けなくて残念。○○ちゃんの発音の変容にびっくりしてくれたり，感心してくれたりするお母さんの反応が○○ちゃんのやる気を支えてくれているといつも感じてきました。「終了伺い書」受け取りました。すてきなメッセージありがとうございます。次回が最終のことばの学習となります。しっかりと仕上げと確認を行います。

次回は，7月14日（木）の予定です。

保護者　印

担任　印

【令和４年７月７日】

【担当から】出発式の司会の話で盛り上がりました。見られなくて，聞けなくて残念。○○ちゃんの発音の変容にびっくりしてくれたり，感心してくれたりするお母さんの反応が○○ちゃんのやる気を支えてくれているといつも感じてきました。「終了伺い書」受け取りました。すてきなメッセージありがとうございます。次回が最終のことばの学習となります。しっかりと仕上げと確認を行います。

【保護者から】本人としてはもう少しスクラムでの学習を続けたいという思いもあったようですが，普通教科の学習等も考えて一歩前へ進もうよ！という話で落ち着きました。残りの学習の回数が少ないということで，本人も気合いを入れて頑張ったのかなっと思います。私自身もスクラムでの学習を通じて「子供の吸収する力」など，改めてその能力に驚かされる日々だったように感じます。子供の成長を一緒に感じ，一緒に喜べる！そんなすてきな時間を作っていただけて本当にうれしく感謝しかありません。ありがとうございました。本人から最後の学習についてどんな感想が来るのかとても楽しみにしていたいと思います。

○　連絡ファイルや学級便りを活用し，自己評価と共に，本時の学習の様子を上記のように毎回保護者と学級担任に伝えている。児童の構音と学びに向かう姿勢の変容を保護者・学級担任と共有するという目的だけではなく，言語通級指導教室から離れた場所や場面での発音の様子も共有することができると考え，継続している。

○　「正しく発音できたか」という観点だけではなく，正しい構音の仕方を身に付けていく「変容の過程」を見取り，評価し，児童・保護者・学級担任と共有することで，「学習したことを定着させるためには，日常生活での気付きや声掛けが大切だ」ということを保護者と教師とが改めて確認し合えるという効果もあった。

○　学習参観後の懇談の際にも，動画や自己評価の累積を資料として提示し，構音の変容の過程を保護者や学級担任と共有している。日常生活のいろいろな場面での変容を児童に実感させることができ，更に保護者にも理解と安心感をもってもらえると考え，継続している。

（3）感染症予防のための学習環境整備の工夫　**【手立て２】**

○　令和２年度の指導開始に当たって，お二人の内科校医先生に感染症対策についてのご指導をお願いした。直接医院へ伺ってご指導をいただいたことを基に，次のような感染症予防対策をまとめ，指導開始の時期と次年度の通級児童を決めるための教育相談の折に保護者へ知らせた。

【感染症予防対策についてのお便り】（抜粋）

スクラム教室１では，教師と児童が横に並んで鏡に向かって発音練習をします。唇の動かし方や舌の形や位置を改善していくことが，正しい発音を導くための大切なポイントとなることから，マスクを外しての学習となります。そこで，「ことばの教室での指導における新型コロナウイルス感染予防」として，内科校医の先生方からご指導をいただき，次の６点の対策を実施していくこととしました。

①　常時換気　　②　空気清浄機・加湿器の常時活用　　③　学習の始めのうがい・手洗い

④　机・椅子・鏡・コップの毎時間ごとのアルコール消毒

⑤　透明シートを張ったパーテーションを挟んで，教師と児童が横並びで学習する。

⑥　ウエハースやポッキー等の教材を使う際，教師はその都度手のアルコール消毒を行う

このように非接触を基本とした学習形態においても，通級してくる児童一人一人が安心して「自分を語る」ことができるような場にできるよう努力していきます。新型コロナウイルスの脅威の１日も早い収息を願い，今ことばの教室でできることをひとつひとつやっていきたいと思います。ご不明な点やご心配な点がありましたら，どうぞ遠慮なさらずにお知らせください。

【業務員さん手作りの
パーテーション】

縦 180 ㎝×横 150 ㎝で上下二段組みになっている。透明シートの張り替えができように工夫されている。

開けた窓の方に扇風機を向けて回し，常時換気をする。換気扇，空気清浄機も常時稼働させている。

ウイルスが舞い上がるのを極力抑えるための手立てのひとつとして，出入り口と教室の中央の２台の加湿器を稼働させて，常時加湿している。

学習で使った飛沫を防ぐためのフェイスシールドを児童自身にアルコール消毒させ，その後教師が水洗いして乾燥させている。

○　言語通級指導教室の床はカーペット敷きになっているので，毎日の掃除機がけの他に，週に１回金曜日の放課後)，薄めた塩素液で拭くようにしている。感染症対策だけではなく，消臭効果もあるので継続している。

Ⅵ　研究の成果と今後の課題

１　研究の成果

【手立て１】

・　パーテーションで仕切られての指導にも児童はすぐに順応し，指示をよく聞いて，舌の正中線を指やストロー等で押さえたり，ウエハースやラムネ，たまごボーロ等を載せるポイントを教師の指示を聞きながら探すことができた。この学びが家庭や学級での音の歪みや置換に気付いた時に「自力で舌位を修正する力」＝「正しい構音の日常化」につながっていくことが分かった。

・　タブレットの活用とレーダーチャートによる自己評価の累積によって，児童自身が自分の発音や舌使いの小さな変容に気付きやすくなった。

・　保護者・学級担任・言語通級指導教室担当の三者が児童の学びを共有することで，日常生活での児童の発音の様子への関心が高まった。

【手立て２】

・　内科校医先生のご指導の下作成した「感染症予防対策」を，内科校医先生の許可を得て「内科校医先生のご指導の下に作成いたしました」という文言を入れて保護者に配布したところ，「ここまでやっていただいてありがたい」という感謝の言葉が寄せられた。マスクを外しての発音練習に対して不安を訴える保護者や児童は現在までの所いない。油断することなく，ご指導いただいた対策を

粛々と継続していきたい。

２　今後の課題

言語通級指導教室における学びが，児童の日常生活に生きて働く力となっていくことを目指し，本研究において更に，次の２点について実践研究を継続していきたい。

① 「過程の評価」を日々の指導に生かすための年間指導計画の作成　【手立て１】

② 自治体から出されるガイドラインに沿った「言語通級指導教室における感染症予防対策」の更新　【手立て２】

Ⅶ　終わりに

学んだことの唯ひとつの証は変わることである　林　竹二

この言葉を心に高く掲げ，児童の変容を認める目と心をもった教師になりたいという思いを胸に，３８年間の教員生活を歩んできた。その中の１０年間は，言語通級指導教室の担当として，「言語指導における『学んだことの証』とは何か」を模索してきた。そこで，見出したのは，「できたか，できなかったか」という結果の評価ではなく，発音の様子が変容していく，その過程を評価し累積していくという指導であった。そして，この変容を児童，保護者，学級担任と共有していくことでこそ，学校での学びを日常生活に広げていくことができるという手応えをこの実践を通して得ることができた。

「過程の評価」を今後も継続し，日々の指導に生かしていくことで，児童が安心して学び，学んだことの証としての正しい発音を日常生活で活用していこうとする意欲を持ち続けることができるように指導・支援していきたいと思う。

＊　本論文は，保護者の承諾を得て掲載しています。

〈参考文献〉

① 小学校学習指導要領（平成２９年告示）
② 小学校学習指導要領（平成２９年告示）解説　国語編
③ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　総則編　平成３０年３月
④ 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説　自立活動編（幼稚園・小学校・中学校）平成３０年３月
⑤ 正しい構音と発音　臨床音声学の理論と実際　濱崎　健治著　2019 年復刻版
⑥ 宮城県教育委員会「学力向上に向けた５つの提言」
⑦ おおさきスタンダード「みのり」

〈資料〉言語通級指導教室　学級通信「花さき山」

花さき山

大崎市立古川第五小学校　スクラム教室１便り

令和４年度　スタート号

制服は未来のサイズ
入学のどの子もどの子も未来着ている　俵　万智

少し大きめの制服。それは「未来のサイズ」とポジティブに捉える感性に心ひかれます。この世界を生きる全ての子供たちの成長を喜び，明るい未来を祈っている一首。明るくリズミカルな歌に，子供たちに出会えた喜び，保護者の皆様と出会えた喜びを託してスクラム教室１の指導を開始いたします。

昨年度に引き続き早坂和枝がスクラム教室１を担当させていただきます。子供たちと保護者の皆様と一緒に「ことばの花」をたくさん咲かせることができるよう努めて参りたいと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

お知らせ

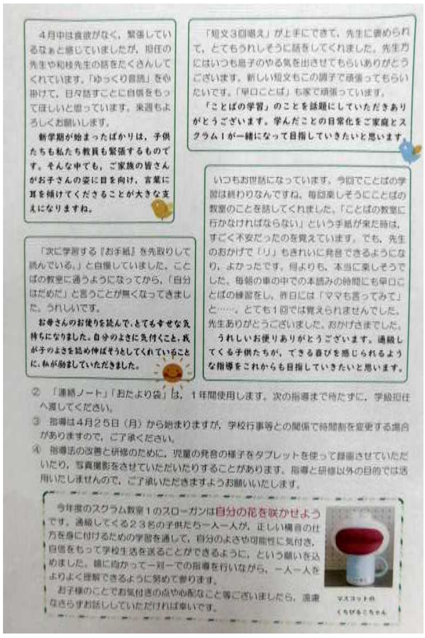
① 連絡ノートで毎時間の指導の様子をお知らせいたします。ご覧になりましたら，ご家庭からの欄にサインをお願いします。昨年度は，たくさんの保護者の方から感想や家での様子を書いて知らせていただき，指導に生かすことができただけではなく，担当の私が保護者の皆様からやる気と元気をいただきました。昨年度書いていただいた感想をいくつか紹介させていただきます。

「前歯を見せて～」と練習した内容を教えてくれて，「前よりできるようになった」と話していました。先生に褒められたのがうれしかったみたいです。いつもありがとうございます。

こちらこそいつも「ことばの学習」についての話を興味をもって聞いていただきありがとうございます。それが，お子さんの学ぶ意欲を高める原動力になっています。

頑張って練習に取り組んでいるようでうれしいです。ポッキーを購入したところ，「舌の練習はこうするんだよ」と教えてくれました。自宅でも楽しく取り組んでいます。いつもたくさん褒めていただきありがとうございます。本人のやる気につながっているんだと思います。「スクラム楽しい」と話しています。

いつも温かいお便りをありがとうございます。お家の方々からいただくお便りに私自身が励まされ，指導を進める元気をもらっています。



４月中は食欲がなく，緊張しているなぁと感じていましたが，担任の先生や和枝先生の話をたくさんしてくれています。「ゆっくり音読」を心掛けて，日々話すことに自信をもってほしいと思っています。来週もよろしくお願いします。

新学期が始まったばかりは，子供たちも私たち教員も緊張するものです。そんな中でも，ご家族の皆さんがお子さんの姿に目を向け，言葉に耳を傾けてくださることが大きな支えになりますね。

「短文３回唱え」が上手にできて，先生に褒められて，とてもうれしそうに話をしてくれました。先生方にはいつも息子のやる気を出させてもらいありがとうございます。新しい短文もこの調子で頑張ってもらいたいです。「早口ことば」も家で頑張っています。

「ことばの学習」のことを話題にしていただきありがとうございます。学んだことの日常化をご家庭とスクラム１が一緒になって目指していきたいと思います。

「次に学習する『お手紙』を先取りして読んでいる。」と自慢していました。ことばの教室に通うようになってから，「自分はだめだ」と言うことが無くなってきました。うれしいです。

お母さんのお便りを読んで，とても幸せな気持ちになりました。自分のよさに気付くこと，我が子のよさを認め伸ばそうとしてくれていることに，私が励ましていただきました。

いつもお世話になっています。今回でことばの学習は終わりなんですね。毎回楽しそうにことばの教室のことを話してくれました。「ことばの教室に行かなければならない」という手紙が来た時は，すごく不安だったのを覚えています。でも，先生のおかげで「リ」もきれいに発音できるようになり，よかったです。何よりも，本当に楽しそうでした。毎朝の車の中での本読みの時間にも早口ことばの練習をし，昨日には「ママも言ってみて」と……。とても１回では覚えられませんでした。先生ありがとうございました。おかげさまでした。

うれしいお便りありがとうございます。通級してくる子供たちが，できる喜びを感じられるような指導をこれからも目指していきたいと思います。

② 「連絡ノート」「おたより袋」は，１年間使用します。次の指導まで待たずに，学級担任へ渡してください。

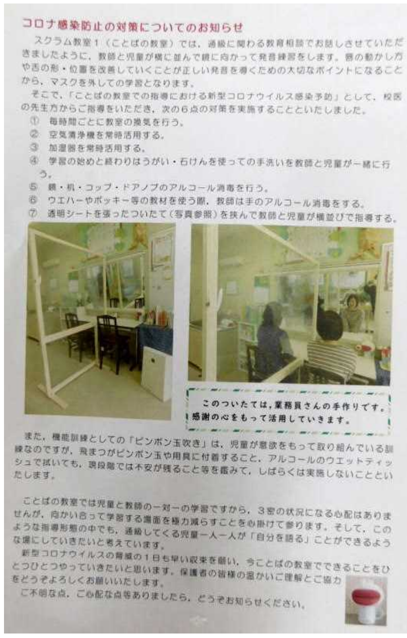
③ 指導は４月２５日（月）から始まりますが，学校行事等との関係で時間割を変更する場合がありますので，ご了承ください。

④ 指導法の改善と研修のために，児童の発音の様子をタブレットを使って録画させていただいたり，写真撮影をさせていただいたりすることがあります。指導と研修以外の目的では活用いたしませんので，ご了承いただきますようお願いいたします。

今年度のスクラム教室１のスローガンは自分の花を咲かせようです。通級してくる２３名の子供たち一人一人が，正しい構音の仕方を身に付けるための学習を通して，自分のよさや可能性に気付き，自信をもって学校生活を送ることができるように，という願いを込めました。鏡に向かって一対一での指導を行いながら，一人一人をよりよく理解できるように努めて参ります。

お子様のことでお気付きの点や心配なこと等ございましたら，遠慮なさらずお話ししていただければ幸いです。

マスコットの くちびるこちゃん



コロナ感染防止の対策についてのお知らせ

スクラム教室１（ことばの教室）では，通級に関わる教育相談でお話しさせていただきましたように，教師と児童が横に並んで鏡に向かって発音練習をします。唇の動かし方や舌の形・位置を改善していくことが正しい発音を導くための大切なポイントになることから，マスクを外しての学習となります。

そこで，「ことばの教室での指導における新型コロナウイルス感染予防」として，校医の先生方からご指導をいただき，次の６点の対策を実施することといたしました。

① 毎時間ごとに教室の換気を行う。
② 空気清浄機を常時活用する。
③ 加湿器を常時活用する。
④ 学習の始めと終わりはうがい・石けんを使っての手洗いを教師と児童が一緒に行う。
⑤ 鏡・机・コップ・ドアノブのアルコール消毒を行う。
⑥ ウエハーやポッキー等の教材を使う際，教師は手のアルコール消毒をする。
⑦ 透明シートを張ったついたて（写真参照）を挟んで教師と児童が横並びで指導する。

このついたては，業務員さんの手作りです。感謝の心をもって活用していきます。

また，機能訓練としての「ピンポン玉吹き」は，児童が意欲をもって取り組んでいる訓練なのですが，飛まつがピンポン玉や用具に付着すること，アルコールのウエットティッシュで拭いても，現段階では不安が残ること等を鑑みて，しばらくは実施しないことといたします。

ことばの教室では児童と教師の一対一の学習ですから，３密の状況になる心配はありませんが，向かい合って学習する場面を極力減らすことを心掛けて参ります。そして，このような指導形態の中でも，通級してくる児童一人一人が「自分を語る」ことができるような場にしていきたいと考えています。

新型コロナウイルスの脅威の１日も早い収束を願い，今ことばの教室でできることをひとつひとつやっていきたいと思います。保護者の皆様の温かいご理解とご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

ご不明な点，ご心配な点等ありましたら，どうぞお知らせください。

【令和４年度　スタート号】　【感染症予防対策のお知らせ】